

高緯度北極における氷河周辺域の植生変化

Vegetation changes at the glacier foreland in the high Arctic

神田 啓史 [1]

Hiroshi Kanda[1]

[1] 極地研

[1] NIPR

1994年以降、スバルパールのニーオルスン（北緯79度57分、東経11度21分）で後退している氷河周辺域の植物変化を推定するための研究を開始した。ツンドラ植物の生態学的な変化を知るために、大陸性気候のエルズミア島のオープロヤ谷（北緯80度51分、西経82度50分）（カナダの北極）と海洋性気候のニーオルスンで後退している氷河域の生態学的な比較は、高緯度北極の気候変動を評価するうえで重要である。また、北極環境の変化を予測するためにも、10年以上にわたる長期観察はより重要である。我々は国際極年（2007年-2008年）に向け、北極周辺のネットワークとしてモニタリングステーションを利用した研究プロジェクト「TUNDRACYCLE」を提案した。この期間に、航空写真によって植生の長期的な変動を展望しつつ、氷河後退と植生や土壌の環境変化についての研究を予定している。

本研究では、ニーオルスン（スバルパール）とオープロヤ谷（エルズミア島）で後退している氷河に最も近い地域での植生変化についての現状を報告する。この方法を用いて、植物が果たす役割、いかに長期監視をするかについて議論する。